

第2回 立川競輪経営戦略検討委員会 議事要旨		
	令和6年9月30日(月) 開始 9時 55分 終了 12時 00分	場所 立川競輪場 大会議室
委員	委員長…神崎 恵子 立川市公営競技事業部長 副委員長…井上 隆一 立川市産業文化スポーツ部長 委員………太田 勇 立川市総合政策部シティプロモーション推進担当課長 伊東 佐知子 立川市行政管理部施設課長 徳丸 祐豪 立川市財務部財政課長 木村 貴史 (公財)JKA 競輪振興業務部次長 富澤 聡 (公社)全国競輪施行者協議会企画担当部長 森谷 武雄 立川競輪場周辺対策協議会副会長	
参考	事務局：福家 賢三 立川市公営競技事業部事業課長 高城 毅 立川市公営競技事業部事業課庶務係長 中村 潤司 立川市公営競技事業部事業課場外係長 二橋 寛典 立川市公営競技事業部事業課施設係長 アドバイザー：(株)ケイドリームス	
議題	1 立川競輪経営戦略骨子案について 2 その他	
委員長	開会 事務局より配布資料の確認 ・資料1 立川経営戦略の骨子案 ・資料2 立川競輪経営戦略骨子案の概要 ・資料3 収益の見込み ・資料4 第1回立川競輪経営戦略検討委員会 議事要旨	
A委員	1 立川競輪経営戦略骨子案について ・事務局より骨子案について説明 ・4の(5)「新たなファン層の獲得」だが、競輪業界としても長年取り組んできた。対象をネットのお客様なのか立川市近辺の商圏のお客様なのかで取り組む内容も結構違ってくる。今まで競輪業界は競輪場周辺住民や商圏だけを重視したというところがあるが、今はファミリー層や若年層という明らかにネット中心になってきているという中でいくと、日本全国が商圏として広がっているとも言える。そういう状況の中で、どのような形でこの	

事務局	層に刺さる政策を打っていくかというところが、ネット投票の売上に繋がってくるのではと感じている。具体的には、公式の今までどおりのほかに、例えばサブチャンネルといった若年層向けのゆるい感じのものから入って固定ファンとなる事例も確認されている。タイプやジャンル、範囲をしっかりと定めた上で戦略を立てるといいのではないかと。 ・現実問題として、ネットの売上が8割程度なっているので、そういったお客様にどうしたら立川競輪で車券を買ってもらえるかっていうことも重要だと考えている。例えばYouTube等活用して、しっかりとターゲットを明確にした形で記載するようにしたい。
B 委員	・第2章の2(3)施設改修工事の状況について、経営戦略は令和7年から令和11年を計画期間としているが、どの段階の施設改修工事の状況を書き込むのか。また、4の(6)立川競輪のイメージについて、それを踏まえた施設改修工事を実施していくことになると思うが、どのように繋げていくのか。
事務局	・施設改修工事について、2(3)の施設改修工事第2期はすでに決まっている施設改修基本計画に基づくもので、バックスタンドにある選手管理棟と選手宿舎は開催に支障をきたすということでこれから実施しなければならないものである。また、施設改修工事第1期で耐震工事をしたが、まだ3コーナーと4コーナーの間のスタンドはいわゆるトタン屋根で古くなっていたりと、工事をしてまた古い場所が目立ってくるため、継続して改修していかなければいけないことを記載したい。
F 委員	・2の(3)は、いつの状況を記載するのか。対象期間が令和7年度から11年度ということで、選手管理棟の改修工事は計画が進行中という書き方か。
事務局	・選手管理棟は令和9年から10年には完成するため、そこまでのところをこの(3)に記載したい。
F 委員	・4の(6)競輪場のイメージに関して、改修工事を踏まえてイメージチェンジが必要という書き方をするのか、それとも現在取り組んでいるという書き方をするのか。
事務局	・現在のところは更なるイメージチェンジということで考えている。ハード面だけでなく、ソフト面も含めて。選手管理棟等のバックスタンドの方は、お客様向けというよりは開催に関する部分のため、それとは別に居心地の良い施設への取り組みは継続していかなければいけないと記載したい。
C 委員	・この経営戦略は、立川市の長期総合計画ではなく、競輪最高会議の中期基本方針から紐づくイメージでよいのか。
事務局	・立川市の長期総合計画が基本にあって、一方で競輪事業としては中期基本方針に沿った形になると考えている。
C 委員	・立川競輪だけの課題なのか、それとも競輪業界全体の課題なのかクロスオーバーしていると感じる。例えば、新たなファン層の獲得、競輪開催日数、地元選手の育成等は立川競輪の事務局で何かできる話でなく、業界全体の課題なのではないか。前回の「競輪事業の将来像について」は、経費をなるべく削減するという話だが、今回は話が大きくなっているのではな

事務局	いか。競輪業界全体の課題と立川競輪の課題に分けて書いた方がいいのではないか。 ・基本的には立川競輪の課題ということで記載したい。例えば、選手地元選手の育成については、競輪選手になってから強くするというのではなく、その前段で競輪を目指す方の裾野を広げるといったことを行う。開催日数については、立川競輪は京王閣競輪と商圈がかぶっているため開催調整をして同日に開催しないようにしているが、逆に日数が空くと遊休施設となってしまう課題をどうするか等。
D 委員	・4の立川競輪の課題の(3)開催時間の拡大の中に近隣住民への配慮について書いてあるが、周辺対策協議会に触れるのか。
事務局	・周辺対策協議会が現状の周辺住民の代表の団体となっており、立川競輪は昔からこの周辺対策協議会イコール地元の代表の方という形では捉えている。実際に進めるときは、地元にも丁寧に説明するつもりだが、周辺対策協議会と立川競輪では車の両輪というスタンスでいる。
D 委員	・骨子案には周辺対策協議会の記述がないので課題あるいは現状に、協議会とは日頃から協議を重ねており、理解もいただいているという記載があるといい。
事務局	・周辺対策協議会の定例会に我々も参加することもあり、協議も交わしているので、そのように記述したい。
E 委員	・(9)のギャンブル依存症対策について、国の依存症対策の基本計画が3年に1回の見直しを行っており、来年度からまた見直すため、現行の計画に引っ張られた内容にするよりも見直した内容をうまく入れられるような弾力的な形で必要があると思う。
事務局	・東京都の計画も令和6年度までで、現在、次の対策推進計画を作成している。同様に注意したい。
F 委員	・(9)で「その他」と言いながら、項目としてはギャンブル対策になっている。今、立川競輪でこのギャンブル自体を特出しするような状況にあるのか。競輪のイメージに対する悪い部分で、ギャンブルに対してのイメージのがすごく強いと思うが、(9)でギャンブルと特出しなくとも、立川競輪のイメージのところで、ギャンブル依存に対するイメージという課題を打ち出した上で、第4章の健全な娯楽施設の項目の中で「そういったイメージをクリア払拭するために、ギャンブル対策にも、国とか都の対策を踏まえて取り組んでいる」くらいの包括的な取り組みとして入れるのがいいのではないか。
G 委員	・一般的に感じるのは、本場は我々後期高齢者の憩いの場、コミュニティの場所になっている。金を賭けて何倍にもしようと思える人はまずほとんどいないだろう。我々世代は、自分の中の可処分所得でもって十分楽しむという程度の人たちが通常の開催では多いと思う。一方で、ギャンブル依存症対策とファミリー層などの新たなファンの獲得といのは一見矛盾したような感じがするが、それを導入するのか。
事務局	・これは本当に難しいところで、我々としては収益が上がれば、市財政に寄

E 委員 G 委員 事務局 ケイドリームス C 委員 G 委員	与できる一方で、ギャンブル依存症対策という問題がある。これは立川競輪だけでなく業界全体の問題になっている。もう一つ注意しなければならないのは、これも矛盾しているところだが、インターネットの顧客、特に若年層が民間ポータルサイトにはまって借金や家族の問題等で、大きな社会問題になっている。東京都のギャンブル依存症計画の策定の中でも、そこをきちっと周知啓発、施行者としてはしっかりと周知啓発したり、適切な場所に繋だいいりしなければならないとしている。 ・また、競輪事業の特殊な問題として、他の公営競技にはない民間ポータルの広告が射幸心を煽るようなものになりかねないということがある。100円から365日24時間のような宣伝でいいのかという指摘もあり、ギャンブル依存症対策については明記しなければならないということで、別立てにした。 ・業界全体で対応するべきものであり、民間ポータルにも指針の中でいろいろ決めているので、ある程度の線引きをして、立川競輪だけでネット含めてすべてケアするところには至らないだろうが、競輪施行者としては一定の配慮をしておくというのは記述しておいた方がよいと思う。 ・第1章「はじめに」で、競輪事業の歴史と現在までの経過が書かれているが、戦後復興に伴う立川市の歴史の中でどういう位置づけになっているかということを入れたらどうか。 ・そのような内容も記載したい。 ・先ほどあったギャンブル依存症は、民間ポータル全体で考えているところで、当然売上や販路の中には影響があるところなので、そこは本当に区別をして理解されたい。国の方針に従ったギャンブル対策をしているということはしっかり謳った方がいいと思う。 ・立川競輪場施設改修基本計画のコンセプトは、1が市民に愛される競輪場で、2が安定的な事業収益を確保できる競輪場となっている。今回逆にになっているがそれでよいのか。 ・また「競輪場の新たな価値の創出」はよいが、価値のイメージが収益あがるということなのか、あるいは、地域の方から評価を得るということも含んでも価値ということなのか。骨子案では「収益の確保」という単語が二つ並んでいるが、緑地帯があるとか非開催日をどう使うかといった多様な価値を盛り込めるといい。 ・地元団体の展示会で、周辺対策協議会についてプレゼンテーションをおこなったときに、立川競輪場が改修工事をして、囲いの一部が撤去されてそこに緑のゾーンができるというような話をした。そのときに地域の人たちがそういったイメージを持つということだけでも、競輪場に対する考え方っていうか見方がちょっと変わってくるということを感じたので、そういう機会をこれから増やしていきたい。また立川競輪場からもそういう説明があればありがたい。 ・また、防災グッズを収納できる公会堂を持たない自治会が増えてきたので、競輪場のスペースを活用出来たらありがたい。
--	--

事務局	・この3の(1)(2)は収益の確保としているので、(3)として、収益面だけではない価値についても記載したい。 ・現状競輪輪場がコンパクトになっており、過去は青少年団体がグッズを置いたりしていたが、だんだんとスペースがなくなっている。そんな中でも、帰宅困難者の一時滞在滞留施設として、簡易トイレや毛布、アルファ米を収納している。また、防災機能を強化しているので、防災、災害用のトイレとか、施設の耐震機能についても改修が進んでいる。今後市として競輪場の機能の役割がまた変わって災害時の一時避難所になれば、防災グッズを置くようになることもあるだろう。
F 委員	・第1章の経営戦略の位置にあるように収益の確保を目的とした計画なので、一番にこれが来てもあまり違和感はなかったが、これまでの話から収益を確保するとともに地域に愛されることを目指すといった位置づけを追加することも検討してもいいのではないか。 ・また、第3章や第4章で述べることは、競輪の収益を上げるために何をするかということなので、4の市財政への寄与というのが、この5本の柱の中あるのは違和感がある。それ以外の戦略をして収益を上げた結果として、市財政に寄与するというのが、本来の流れではないか。
事務局	・確かに戦略の結果の収益で市財政に寄与するというこのため、4つの柱としてその後に移動させることも検討したい。
F 委員	・構造的な課題として、一般会計に繰り出した財政調整基金の積み立てという課題があるのは確かなので、そこをどの程度厚みを持たせるかによって、柱の中に入れてもいいかと。ただその場合は5番でよいか。
事務局	・5次長期総合計画にもリンクする部分で、現行の4次長計にも指標の中の1つに一般会計への繰出しというものがある。この金額については、5次長計は現在調整中であり、詳細な数字を示せないため、今回の資料3については最低限7億円程度の収益が出るということで市財政には寄与できるという作りになっている。7億円のうちいくら繰り出せるかということ、施設の老朽化の課題や地方公営競技納付金の課題があるため、具体的には記載できない。
A 委員	・立川競輪の目標があって、それに対する課題があって、それを解決するためにはこの五つの柱があって、五つの柱を達成するためにはこの戦略でいうことかと思うが、2(3)の防災機能は前段に一言もないが、いかがか。
事務局	・施設改修基本計画の中の3つのコンセプトの中にも防災機能を強化した競輪場というものがあるので、課題の(8)施設のところ等に記載したい。そのコンセプトのもと、施設改修工事第2期でレジリエンストイレやマンホール、スタンドパイプの設置等してきて、第1期工事の耐震化とあわせて、防災機能が強化された競輪場ができあがると記載したい。
C 委員	・例えば地元選手の育成について、立川競輪場の収益からそのプロモーション費を出せるのか。立川競輪の収益から出していくというところがどうしても引がかかる。ある程度業界全体でやるべきで、その枠組みが見えてこない。戦略として地元選手と連携した取組みというのはわかるが、選手

事務局	頑張っているが、そこに費用はかかっていないのではないかな。もう一歩進んで何かするとしないと記載してあるだけで終わってしまうので、上位団体や京王閣競輪とやろう等、今までと同じことではなく、例えば年間何千万円なのかかけても面白いのではないかな。 ・広報の予算があり、その中でプロモーションビデオ等を作っているが、現状収益率に影響があるような額ではない。今後はもっと多額が必要になってくる可能性はあるが。例えば、第4章の地域に愛される競輪場の中の自転車競技の魅力発信に関して、J K Aに依頼してトラックサイクリングキャンプをやったことあるが、ある程度に費用負担してでも、一流ナショナルチームのコーチを呼んで自転車競技を目指す人などを集めて競輪学校のための予備校的な役割で繋げていけば、さらに地元選手が増えるのではないかなということも検討もしている。確かに費用負担があり、具体的な金額を記載できればいいのだが、現時点では明記できないかなと考える。
C 委員	・課題を挙げたときに、結局対策を挙げてないとか、あるいは立川競輪として実施したときにどれくらいの効果があったのかという問題がでるかもしれない。上位団体や他の団体との関係もあるため、難しい部分もあるが、その点を整理した方がよいのではないかな。
事務局	・この地域に愛される競輪場(4)にあるように自転車競技の組織でH P C J Cというのがあり、いわゆる世界のトップチームやスタッフが集結している日本の自転車連盟のトラック競技の強化組織である。岐阜競輪場は費用を払ってそこコラボして、は関西地域の合宿の拠点にしたりしている。立川の場合、例えばこのH P C J Cに参加して競輪にその冠をつけたり、費用を多めに払ってオリンピック選手を斡旋してもらったり、トークショー等をしたりすることで地元のお客を増やす等考えられるが、魅力発信をしていくにはやはり経費がかかる。
C 委員	・おそらくH P C J Cについて市民の方はほとんどわかってないと思うので、それが目に見える形で立川競輪はやり方が変わったということをわかるようにしないと、プロモーションをしている意味がない。どう市民や近隣住民に周知をするか。市外周知は行政には難しいが、市外に届けるサウンドメディアを持っていない。かつ立川競輪を知らない人に知らせていかなくてはいけないので、相当費用がかかると思う。そこまで踏み込んでやるかどうか。
A 委員	・今の岐阜競輪もそうだが、各競輪場で独自性を持たせて、町内掲示板だけでなく地域住民も含めてアピールする取組みをしている中で、立川競輪は、例えばこの5年間で、どう独自性を打ち出していくのが重要である。 ・立川競輪の収益見込みの中で、普通開催の収益がゼロで出している。競輪業界で課題であった普通開催の赤字解消に取り組んでいて、ミッドナイト競輪やナイター競輪を行うことで収益確保できてきている。 ・一方で立川競輪は課題のとおり昼間しか開催ができないが、ネットでは平日昼間にネットで買うお客さんはかなりいて、その中で特にランチタイム

事務局	にスマホで買うようなニーズが若年層、20代30代で顕著に出ている。 ・普通開催の提供が数少なくなっている中で、立川競輪を含めて昼間開催場は独自性を発揮できるといえる。昼間開催の売上の伸びしろは十分あって、それ踏まえてプロモーションや番組情報の提供等で取り組めることがあるのではないかと。 ・確かにインターネットのお客さんがナイターやミッドナイト、モーニングに移行したため、過去は全国で1日10何場と開催していたのが、現在は昼間の混雑が緩和されたというのがある、ランチタイムやネットのお客様に訴えかけるようなプロモーションを今後考えていきたい。
G委員	・通常開催ではなかなか利益が出ない中、ミッドナイトをやることに対する立川競輪の熱量はどのくらいか。また、グランプリほか特別競輪はどのように開催場を決めているのか。
事務局	・熱量というより不安な面が大きい。ミッドナイトを開催できる場が全国43のうち33施行者で、自場で開催できないところが7施行者、来年度また2つ増えるという中で、取り残された時点でいつ借り上げてのミッドナイト開催ができなくなるかわからないという不安の方が大きい。いつでもできる状態にしておきたいという思いを危機感とともに持っている状況である。
E委員	・グランプリほか特別競輪については、毎年度施行者に対して募集して応募を受け、業界で審査をして決定するというプロセスである。競輪祭や高松宮記念杯等についても固定とはなっていない。ただ、実際は、これまでの歴史等、いろいろなものを鑑み、実際に他の施行者が手を挙げていないという現状がある。
委員長	・事務局の説明を補足すると、自場でミッドナイトを開催できない競輪場が43場うち7場で、立川競輪は前橋競輪場を借りて開催しているが、前橋競輪から貸せる日程はないと言われる不安と、その場合ほかの競輪場を借りる調整が必要になるが、ミッドナイトは収益を上げやすい開催のため簡単にはいかない。
ケイドリームス	・補足だが、岐阜競輪の取り組みの一つで、その競輪場以外に、例えばオリンピック選手が小中学校の講演会に出る等、地域の方と交流を深めるというようなこともやっている。自転車競技のパワーというのは逆に言うと競輪とは違った意味でそういった活用ができると思うので、金をかけない工夫はいろいろあるかと思う。